

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690300037		
法人名	社会福祉法人 愛心会		
事業所名	グループホーム青空		
所在地	小松島市中田町字新開52番地		
自己評価作成日	平成27年12月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成28年2月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所内の勉強会を開催したり外部の研修にも参加、又協力病院の研修にも参加し、認知症ケアの知識や技術、感染症などに関する知識を身に着け日々のケアの質の向上に取り組んでいる。利用者さんの外出などの機会も設けている。季節季節の行事なども行っており、又ボランティア、高校生、社会人の実習も受け入れ認知症についての理解を深めていってもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市中心部に位置しており、近隣には市役所や消防署、医療機関、保育所、公園等がある。利用者と職員で公園へ出向いて桜並木を散歩するなど、季節の移り変わりを感じることができるようにしている。管理者と職員は、理念を踏まえた介護目標を共有し、利用者一人ひとりの意向や希望をできる限り尊重することができるよう支援している。家族には、利用者の日々の暮らしの状況や心身状態を“お便り”とともに送付している。代表者や管理者は、職員が事業所内・外の研修に参加したり、資格を取得したりすることができるよう支援している。協力医療機関等との連携を図り、適切な医療を受けることのできる体制を構築している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			ユニット 1	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々のサービス提供場面でケアについて統一が図れているか又言葉かけや接し方が適切にできているか理念に反映されているか職員間で話あっている。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。全職員は理念を支援の原点として捉え、職員間で理念について話し合っ共有化を図っている。また、介護理念と介護目標も作成している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園の運動会、町民運動会、福祉祭り、芸能祭港まつりに行っている。又近くの公民館であるサロンに毎月参加させてもらっている。市広報などから情報を得て催しなどあればいっている。幼稚園児の訪問もあり	事業所では、市の広報紙や地域の方から情報を得て、利用者と職員で地域の行事に参加するようにしている。高校生や社会人の介護実習を受け入れるなどしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生の実習生や社会人の実習の受け入れも積極的に受け入れ実習を通じて認知症ケアについての接し方や理解を深めてもらっている。老人会訪問時や見学に来られた時に相談など受けて対応している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の運営状況やサービスの取り組みなど報告、評価やアンケート結果を開示し意見などを聞きサービスにつなげている	2か月に1回、運営推進会議を開催している。事業所の活動状況や利用者の現状、自己・外部評価結果等を報告し、出席者と話し合っている。出された助言や意見は全職員に周知し、サービスの質の向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議出席時、事業所の取組などつたえている。何かあれば出席時に相談したり直接出向いて相談している。	日頃から、管理者は、市担当窓口を訪問し、成年後見人制度や利用料等に関するアドバイスを得ている。また、市の介護相談員の来訪時には、利用者の相談等に繋げており、積極的に協力関係を構築するよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が外に出ようとする時は一緒に出て散歩している。玄関の鍵は自由に出られるようになっている。身体拘束についても身体拘束だけでなく言葉による拘束などないか職員間で話し合いケアに取り組んでいる。	事業所では、“身体拘束ゼロへの手引き”に基づいて全職員で研修を行っている。管理者や職員間で身体拘束の弊害の理解に努め、利用者の自由な暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の支援の中で身体的虐待や虐待につながる不適切な言葉がないか話あっている汚れた衣類を更衣せずにいることも虐待になるなど又新聞記事等からも取り上げ支援の中で防止に努め研修にも参加している。			

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価	外部評価	
			ユニット 1		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について冊子を用いて理解を深めてもらっている。後見人が必要とされる人には包括支援センターなどに相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類のすべてについて説明をして契約をしている。説明時不明なところや疑問点がないかお聞きしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は日頃から利用者や家族の要望などを聞く機会を設けている。(家族会面会時利用支払い時など)又介護相談員や傾聴ボランティアの月1回の訪問で利用者の意見を聞いてもらいサービスにつなげている。	事業所では、家族の来訪時に意向や希望を聞くようにしている。職員は、利用者や家族が意向を表出しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見等は職員間で話し合うなどして、運営面に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望や意見などに耳を傾け、対応可能なことは意見など反映させてサービスの質の向上に取り組んでいる。気づきノートの活用	日頃から職員は、支援に対する意見等を“気づきノート”に記入している。管理者は、職員の意見を聞くようにしている。また、職員のアイデアなどを代表者へ伝えるなどして、サービスの質の向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場に来ており勤務状態などの把握に努めている。年2回の健康診断なども行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部や外部の研修にも出来るだけ多くの職員が研修に出られるように取り組んでいる。研修に行った分は申し送り後に発表している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの管理者にも運営推進会議に出席してもらいお互いに情報交換して相互サービスの質の向上につなげている。(管理者が出席できないときは他職員の出席)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談や事前情報で本人や家族から生活状況の把握をしようとしている。サービス開始時には慣れないところでの生活に不安があるため本人の気持ちを理解し不安を受け止め信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時家族の思いや要望などを聞き事業所としてどこまで対応できるか説明している。又面会に来られた時などにも要望などないかお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の状況や思いを確認し本人にとってどんな支援が必要か見極めてサービス利用に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の色々な出来事にも共感共有しともに生活する中で家事など協働できるような場面づくりをしている。お互いが和やかな生活が出来るように関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月青空通信と日々の生活の様子をお知らせする手紙を送付している。又何かあればその都度連絡を入れている。面会時にはホールや居室で談話している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人にカットなど来てもらっている。近くの商店と一緒に食材などを取りに行つて馴染みの関係を作っている。自宅へ帰つてカットやパーマなどしている。(娘さんが美容師さん)	事業所では、利用者が馴染みの喫茶店でコーヒーや会話を楽しんだり、行きつけの理美容院を利用したりすることができるよう支援している。馴染みの人や場所等との関係の継続に留意した取り組みを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し、席替えをしたりレクリエーションなど楽しく参加出来るよう雰囲気づくりをしている。食事の時間に他利用者さんを呼びに行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームに帰居できない時や退院後のことについて家族の相談や支援にかかわりフォローしている。入院時や他事業所に移る時は普段の生活などの情報提供をしている。退去後も面会などに行ったりしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ一人一人の思いや意向をお聞きしているが、困難な場合は日頃の会話や表情態度から、汲み取ったり家族などからも聞き取りして本人本位でサービスにつなげている。	職員は、日々の利用者との関わりのなかで希望や意向を把握するよう努めている。意志の表出が困難な方には家族等から情報を得るなどして職員間で話し合い、支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや日頃の会話の中から生活履歴の把握に努め本人を理解するようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の状態をケア記録に記載し職員間で情報共有し状態の把握に努め本人の不利益にならないように、出来ることできないことを見極めて本人の有する力が発揮出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意見を聞き反映させているが、本人の思いを聞くのが困難な時は本人に、取ってどんな支援が必要か職員間で検討して介護作成に生かしている。	全職員でモニタリングやカンファレンスを行っている。利用者や家族の意向を尊重したうえで、介護計画を作成している。職員は、日頃の利用者との関わりのなかで気づきしたことを“気づきノート”に記載している。また、本人の心身状況の変化に応じて、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録で本人の状況が一目でわかるようになっている。又日誌、ケア記録は日常の様子がわかるように記載し職員間で共有してよりよいケアにつなげていけるように実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じてよく話し合い理解してもらい柔軟に対応し必要なサービスにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや介護相談員さんの訪問や傾聴ボランティアの訪問などがあり相談や話相手となってきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医から協力病院の医師をかかりつけ医とするときは本人や家族の同意を得て納得してもらっている。本人の不利益にならないようにしている。	契約時の段階で、本人や家族の同意を得たうえで協力医療機関の医師を主治医としている。専門科の受診時には、家族と連絡を取り合うなどして支援している。また、管理者が看護師資格を有していることから、必要に応じて受診に同行するなどして普段の様子や変化を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のお生活の中で常に入居さんの状態を把握し変化があれば管理者や看護師に報告し早めに病院受診している。緊急時にはマニュアルに沿って対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者さんが入院した時は入居時の様子や服薬状況などの情報を提供している。又ホームでの生活が困難と判断された時主治医や師長と相談し本人や家族の方が不安のないようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合やターミナルについては入居時の契約時に事業所の対応についても説明している。長期入居の方についても体調変化などあったときは随時話あっている。	契約時に、重度化した場合や終末期の対応に関する事業所の方針等を説明している。医療連携体制を整備し、利用者の状況変化に応じて本人や家族、関係者で話し合い、ケアの方針を再確認して支援するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練と一緒に人形をモデルにAEDの救急救命について訓練もしている。事故発生に備えて、マニュアルを整備している。随時消防署にもお願いしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時隣接する協力病院ケアハウスと連携できる体制を構築している。利用者参加で2、3ヶ月に1回昼夜を想定した訓練を実施し合同の訓練もしている。近隣の住民に声掛けし利用者家族職員の家族も参加している	年2回、消防署の協力を得たうえで、日中と夜間を想定した避難訓練を行っている。また、利用者や家族、住民等の出席を得ている。隣接の事業所と合同で避難訓練等を実施することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄等の誘導時に大きな声で言ったり誇りを傷つけるような言葉かけをしないように話しあっている。何かをしてもらて出来ないことがあっても、感謝の気持ちを伝え本人が誇りを持てるようにしている。	事業所では、利用者を人生の先輩として尊敬の気持ちをもって支援するようにしている。日頃の利用者との関わりのなかで、一人ひとりの気持ちや意向を尊重し、入浴や排泄の誘導時にはさりげない声かけを行うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の気持が反映できるような場面づくりをしているが、十分意思表示ができない人の場合は表情や反応を見て思いを汲むようにしているが行事や外出など職員が決めていることが多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に朝ゆっくりと寝ていたい人は朝食をずらしたり、その時の気分で居室で食事をしたい人は教室配膳したりしている。お昼寝も、したい人は自分で適当にしている。(ソファや居室で)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めなど希望する人は職員がしている。カットなど馴染みの人に来てもらっている。外出時などの服装は一緒に選んでいる。スカーフ、帽子なども季節に合わせて着用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものなど聞いて献立も作っている。出来る人にはテーブル拭きやお膳拭き、やもやしの根切り、お茶パック詰めなど一緒にしている。副菜のつぎわけや食器洗いやすすぎなどもしている。	利用者と職員で話し合っって献立を立てている。また、インターネットなどで調理方法等を調べて参考にすることもある。利用者と職員で会話を楽しみつつ、明るい雰囲気なかで食事の準備を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事分量をチェック、把握している。栄養面も考えて献立を作っている。個々に合わせた食事形態や分量にしている。食事分量の少ない時は、ジュース、ポカリ、甘酒などで補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや見守りで、出来る人にはしてもらっている。個々に応じて口腔ケアを行っている。舌苔がある人はスポンジやブラシで磨いている。個々に応じて口腔ケアを行っている。適宜歯科受診もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を見ながら定期的にトイレ誘導を行い失禁の軽減に努めている。本人の動作や態度で排泄のサインをキャッチしてトイレ誘導を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めたうえでトイレへの誘導を行っている。職員がトイレ誘導などを行う際には、さり気ない声かけを心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便の確認を行い必要時緩下剤で調節している。食事は繊維の多く含んだものを取り入れ牛乳やヨーグルトなどの乳製品も取り入れている。又水分補給も十分とっている。適度に運動もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はできるだけ本人の希望に沿って(午前、午後)入ってもらっている。湯加減など一人1人の好みに合わせており入浴中は会話を楽しみながら入っている。長湯がしたい人は最後にゆっくりと入ってもらっている。	事業所では、少なくとも週3回は入浴してもらうことができるよう支援している。利用者一人ひとりの心身の状況に応じ入浴時間を長く設けるなどして、ゆったりとした気分で入浴することができるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度や照明の調節、就寝前のトイレ誘導など行いゆっくり休めるようにしている。冬場希望する人には湯たんぽを入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬している薬情報を1F2Fホールやスタッフルームに置いていつでも必要な情報が得られるようにしている。自分で服薬できる人は手渡し服薬できているか確認している。症状の変化の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、洗濯ものたたみ、おしぼりをまいたり食材の盛り付け、食器あらいなどその人にあつたお手伝いなどしてもらっている。手伝ってもらった後は感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	特に本人からの希望がない時でも外食やドライブ、喫茶店、近隣に催しものがあれば出かけている。又車いすの人も個別に行っている。家族の協力でお出かけもしている。	利用者と職員で、季節の花見や阿波踊りの見物に出向くなど、利用者の希望に応じた外出の支援を行っている。また、家族の協力を得るなどして外食に出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	パン屋さんの訪問販売があるときは見守りでお金を自分で出して購入してもらっている。自分でお金を持っていたい人には家族と話しあって少額のお金を持ってもらっている。化粧品なども買いに行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の声を聴きたいが自分でかけられない人は職員が電話をかけてお話しが出来るようにしている。年賀状作成も職員と一緒にしながら家族に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節、季節で季節感を感じてもらえるように、お雛様、5月人形、鯉のぼり、七夕飾り、クリスマスツリーお正月には門松やお花を飾っている。寒い時の入浴は、脱衣場や浴室は温めて体に負担がかからないようにしている。	季候の良い日には、玄関の前を“カフェ”と名付け、お茶会やラジオ体操等を楽しむことができるようにしている。トイレや浴室を清潔に保っており、玄関や廊下には観葉植物を置くなどの配慮も見受けられる。季節感のある落ち着いた空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間は一体的なつくりで居間にはソファを置いているのでテレビを見たい人はテレビを見たり、テーブルでは雑誌などを見ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた身近なものを持って来られ使用している。写真や置物など持ってこれている。	入居時の段階で利用者や家族と相談し、家族の写真や使い慣れた調度品等、本人の馴染みの品を持ち込んでもらっている。利用者が居室を間違えることがないよう、一人ひとりの意向を確認して目印や標記にも工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室の作りは段差のないように作られている。階段にも手すりがついており上がり降りが、しやすいようになっている。自分のお部屋やトイレの位置がわからない人には目印つけてわかりやすくしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々のサービス提供場面でケアについて統一が図れているか又言葉かけや接し方が適切にできているか理念に反映されているか職員間で話あっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園の運動会、町民運動会副祭り芸能祭港まつりに行っている。又近くの公民館であるサロンに毎月参加させてもらっている。市広報などから情報を得て催しもの等あればいっている。幼稚園児の訪問もあり		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生の実習や社会人の受け入れも積極的に受け入れ実習を通じて認知症ケアについての接し方や理解を深めてもらっている。老人会訪問時や見学时に来られた時に相談等受けて対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の運営状況やサービスの取組等報告、評価やアンケート結果を開示し意見等を聞きサービスにつなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議出席時、事業所の取組など伝えている。何かあれば出席時に相談したり直接出向いて相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が外に出ようとする時は一緒に外に出て散歩している。玄関は自由に出られるようになってきている。拘束についても身体拘束だけでなく言葉による拘束等ないか職員間で話し合いケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の支援の中で身体的虐待や虐待につながる不適切な言葉がないか話し合っている汚れた衣類を更衣せずにいることも虐待になる等又新聞記事からも取り上げケアの中で防止に努め研修にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について冊子を用いて理解を深めてもらっている。後見人が必要とされる人には包括支援センターなどに相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類のすべてについて説明して契約をしている。説明時不明なところや疑問点がないかかお聞きしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者や家族の要望等を聞く機会を設けている。(家族会や面会時利用料支払い時等)又介護相談員や傾聴ボランティアの月1回の訪問であるが利用者の意見を聞いてもらいサービスにつなげている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望や意見に耳を傾け対応可能な意見等を反映させてサービスの質の向上に取り組んでいる。気付きノートの活用		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場に来ており勤務状態の把握に努めている。年2回の健康診断等も行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部や外部の研修にも出来るだけ多くの職員が出られるように取り組んでいる。協力病院の研修にも参加している。研修に行った分は朝礼後発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの管理者にも運営推進会議にも出席してもらいお互いに情報交換して相互サービスの質の向上につなげている。(管理者が出席できない時は他職員の出席もあり)		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談や事前情報で本人や家族から生活状況を把握するようにしている。サービス開始時には慣れないところでの生活に不安があるため本人の気持ちを理解し不安を受け止め信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時家族の思いや要望等を聞き事業所としてどこまで対応できるか説明している。又面会に来られた時なども要望等ないか聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の状況や思いを確認し本人にとってどんな支援が必要か見極めてサービス利用に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の色々な出来事にも共感共有し、ともに生活するなかで家事等協働できるような場面づくりをしている。お互いが和やかな生活が出来るように関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月青空通信と日々の生活の様子をお知らせする手紙を送付している。又何かあればその都度連絡を入れている。面会時にはホールや居室で談話している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容師さんにカット等に来てもらっている。近くの商店などに食材等を取りに行き馴染みの関係を作っている。行きつけの美容院に家族と行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し席替えをしたり、レクリエーション等楽しく参加できるような雰囲気づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームに帰居できない時や退院後の事について家族の相談や支援にかかわりフォローしている。入院時や他事業所に移る時は普段の生活などの情報提供をしている。退去後も面会等に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ一人一人の思いや意向をお聞きしているが、困難な場合は日頃の会話や表情態度から、汲み取ったり家族などからも聞き取りして本人本位でサービスにつなげている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや日頃の会話の中から生活履歴の把握に努め本人を理解するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の状態をケア記録に記載し職員間で情報共有し状態の把握に努め本人の不利益にならないように、出来ることできないことを見極めて本人の有する力が発揮するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意見を反映させているが、本人の思いを聞くのが困難な時は本人にとってどんな、支援が必要か職員間で検討して介護作成に生かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録で本人の状況が一目でわかるようにしている。又日誌やケア記録は日常の様子がわかるように記載し職員間で共有してより良いケアにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じてよく話し合い理解してもらって柔軟に対応し必要なサービスにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや介護相談さん、傾聴ボランティアさんの訪問があり相談や話相手とあってくれる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医から協力病院の医師をかかりつけ医とするときは本人や家族の同意を得て納得してもらっている。本人の不利益にならないようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で常に入居者さんの状態を把握し変化があれば管理者や看護師に報告し早めに病院受診している。緊急時にはマニュアルに沿って対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常の支援の中で身体的虐待や虐待につながる不適切な言葉がないか話し合っている。汚れた衣類を更衣せずにいることも虐待になる等又新聞記事からも取り上げケアの中で防止に努め研修にも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合やターミナルについては入居時の契約時に事業所の対応についても説明している。長期入居の方についても体調変化等あったときは随時話あっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練と一緒に人形をモデルにAEDの救急救命についても訓練している。事故発生に備えてマニュアルも整備している。随時消防署にもお願いしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時隣接する協力病院ケアハウスと連携できる体制を構築している。利用者参加で2,3ヶ月に1回昼夜を想定した訓練を実施し合同の訓練も実施している近隣の住民に声掛けし利用者職員の家族も参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄等の誘導時に大きな声で言ったり誇りを傷つけるような言葉かけをしないように話し合い対応している。何かをしてもらって出来ない事があっても感謝の気持ちを伝え本人が誇りを持てるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の気持ちが反映できるような場面づくりをしているが、十分意思表示が出来ない人の場合は表情や反応を見て思いを汲むようにしているが行事や外出は職員が決めていくことが多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に朝ゆっくりと寝ていたい人は朝食をずらしたり、その時の気分ですべてで居室で食事したい人は居室配膳をしている。お昼寝も、したい人は自分で適当にしている。(ソファや居室で)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染め等希望する人は職員がしている。外出時などの服装も一緒に選んでいる。スカーフ、帽子なども季節に合わせて着用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物等聞いて献立も作っている。出来る人にはテーブル拭きやお膳拭き、もやしの根切り、お茶パック詰め等一緒にしている。副菜の次分けや食器洗い、すすぎもしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事水分量をチェック、把握している。栄養面も考えて献立を作っている。個々に合わせた食事形態や分量にしている。食事水分量の少ない時はジュース、ポカリ、甘酒などで補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけや見守りで、してもらっている。個々に応じて口腔ケアを行っている。舌苔がある人はスポンジやブラシで磨いている。適宜歯科受診もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を見ながら定期的にトイレ誘導を行い失禁の軽減に努めている。本人の動作や態度で排泄のサインをキャッチしてトイレ誘導を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便の確認を行い適宜緩下剤で調節している。食事は繊維の多く含んだものを取り入れ牛乳やヨーグルトの乳製品も取り入れている。水分も十分とり適度に運動もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はできるだけ本人の希望にそって入ってもらっているが、行事とか、外出の時は午前に入ってもらっている。湯加減等一人一人に合わせて長湯がしたい人は最後に入ってもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度や照明の調節、就寝前のトイレ誘導などゆっくり休めるようにしている。冬場希望する人には湯たんぽを入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬している薬情報を1F2Fホールやスタッフルームに置いていつでも必要な情報が得られるようにしている。自分で服薬出来る人は手渡し服薬できているか確認している。症状の変化の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し洗濯物量おしぼりをまいたり食材の盛り付け、食器洗い等その人に合ったお手伝い等してもらっている。お手伝いの後は感謝の気持ちを伝えている。入浴後にビールとおつまみがほしい人には出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	特に本人からの希望がない時でも外食やドライブ、喫茶店、近隣に催しものがあれば出かたり又車椅子の人も個別に行っている。家族の協力でお出かけもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	パン屋さんの訪問販売がある時は、見守り声かけでお金を出して購入してもらっている。自分でお金を持っていたい人は家族と話あって少額のお金を持ってもらっている。化粧品なども買いに行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の声を聴きたいが自分で電話を掛けられない人は職員が電話をかけてお話しが出来るようにしている。年賀状作成も職員と一緒にして家族などに出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節、季節で季節感を感じてもらえるように、お雛様、5月人形、鯉のぼり、七夕飾り、クリスマスツリーお正月には門松やお正月用のお花を飾っている。寒い時の入浴は、脱衣場や浴室は温めて体に負担のかからないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間は一体的なつくりで居間にはソファを置いているのでソファに座りテレビを見たり談話したりしている。テーブルでは雑誌等見ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた身近な物を持ってこられて使用している。写真や置物等持ってこられている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室の作りは段差のないように作られている。階段にも手すりがついており上がりおりがしやすいようになっている。自分のお部屋や、トイレの位置が分からない人には目印をつけてわかりやすくしている		